

 <h1 style="text-align: center;">福山平成大学</h1> <h2 style="text-align: center;">FDニューズレター No. 16</h2> 	<p>発行：福山平成大学 FD推進委員会 〒720-0001 広島県福山市御幸町 上岩成正戸 117-1 084 (972) 5001 (代) fd@heisei-u.ac.jp</p>
--	---

目 次

授業公開 アクティブラーニング実地見学会	1
福祉学科「ボランティア活動論」(杉本浩章准教授・崔銀珠講師)	
FD 研修会報告 (ハラスメント委員会との共催) 講師：福山大学人間文化学部心理学科 日下部典子教授 「ストップ・キャンパス・ハラスメント！～誰でも加害者・被害者に～」	2
FD 講習会報告「実用統計講座」(経営学科 福井 正康 教授)	3
令和元年度学生による授業アンケート調査結果	4～8
FD 関連図書コーナー新着案内	9
令和元年度 FD 推進委員会活動記録	10

アクティブラーニング実地見学会

本学の FD 活動としてアクティブラーニングを取り入れた授業の見学会を 2019 年 6 月 21 日 (金) に開催しました。今回は、杉本浩章准教授と崔銀珠講師が担当する福祉学科の 1 年生の科目「ボランティア活動論」の授業を見学させていただきました。

この科目では、近年西日本豪雨など頻発する自然災害を受け、防災意識を高め、災害福祉を考えることを狙いとして避難所運営について学ぶ HUG を授業に取り入れてています。HUG とは、避難所(H)運営(U)ゲーム(G)の頭文字で、災害福祉を考えるシミュレーション型訓練ゲームです。グループごとに分かれた学生達は避難所に見立てた平面図に、年齢や被災状況が書かれた避難者のカードを配置するゲームをしながら避難所運営の方法や、災害時の対応を学びます。例えば、ある市の避難所運営を任せられたという想定の下で、グループごとに相談し、次々にやってくる避難者の状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切に対応する術を考えます。複数グループで行うことにより、様々な避難所運営の工夫や課題を共有することができます。また、ゲームでは、認知症や持病のある方が避難してきた場合の対応や、避難者の数よりも少ない食料や毛布をどのように配布するのか等、真剣に考えながら、しかもゲーム感覚で学ぶことができます。実際の災害時に学生として何ができるのか、何をすべきなのかを真摯に考える有意義な時間でした。他学科の教員も多く参加して下さり、学生が気付かなかったことに対するご質問やご指摘を頂くことが出来た貴重な機会を得ることができました。



FD 研修会報告

「ストップ・キャンパス・ハラスメント！」

～誰でも加害者・被害者に～

福山大学 人間文化学部心理学科
教授 日下部典子氏

6月20日（木）に全教職員対象のハラスメント防止研修会をハラスメント委員会との共催で行いました。福山大学人間文化学部心理学科 日下部典子 教授を講師にお招きし、「ストップ・キャンパス・ハラスメント！～誰でも加害者・被害者に～」というテーマで、ご講演いただきました。

日下部先生はユーモアをまじえた説得力に富む講演内容で、大学におけるハラスメント防止の重要性について、わかりやすく説明されました。

また講演だけでなく、参加者全員によるロールプレイングやグループディスカッションもあり、それらを通じて具体的にハラスメント問題の理解を深めることができ、大変有益で充実した研修会となりました。今後ハラスメントのない快適な大学をめざして、取り組んでいきたいと考えています。



FD講習会報告

実用統計講座

経営学科 福井 正康 教授

昨年度に引き続き、経営学科の福井正康教授による「実用統計講座」を開催しました。9月3日（火）から6日（金）に開催しましたが、看護学科の実習と重なったため、12月23日（月）から25日（水）に2回目を開催いたしました。1回目のはべ21人、2回目のはべ29人の参加者がありました。

この講習会は、研究と授業改善のために毎年実施しているもので、今年で12年目になります。初日はデータの集計と検定についての基礎統計、2日目は多変量解析の初級編、3日目は多変量解析の中級編、そして4日目は統計分析のトピックスについての講習を行いました。2回目の講座は日程の都合で3日間に開催になりましたが、社会科学や看護研究の分析では3日間は必要だということでした。

講習会では実際にソフトを動かしながら統計分析の意味や注意点などを学びました。講習で使っているソフトは、本学での学生指導を元に開発を進め、ネットで公開している分析ソフト **College Analysis**（略して **C.Analysis**）です。これはフリーソフトで、簡単にUSBメモリにコピーして学生に渡すことができますので、卒業研究には最適です。統計はどのような場面でどのような分析を使うかが重要ですので、他のソフトを使っておられる方も応用できます。今後の研究や教育で統計処理の相談もしていただけるということですし、応基礎知識は全く必要ないということでした。興味のある方は来年度、ぜひご参加ください。



令和元年度 学生による授業アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 実施期間

前期：令和元年7月16日（火）～8月9日（土）

後期：令和2年1月20日（月）～2月14日（金）

(2) 対象科目

演習・実習等の科目を除く、全科目（履修者数5名未満の科目を除く）

(3) 実施科目数

前期：313科目

後期：264科目

(4) 実施方法

- ▶ 学修支援システム・セレッソを用いて、授業時間内に教員の指示に従って、学生が各自スマートフォンなどを通じて回答する。
- ▶ アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却。大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当FDニュースレター等で公表する。

(5) 設問

<授業に関する設問>

Q1-1. この授業の履修の決定や学修する際に、シラバス（授業概要）を読んだ

Q1-2. シラバス（授業概要）は、この授業の学修に役立った

Q1-3. シラバス（授業概要）の到達目標を達成できた

Q2. 受講にあたって、学修到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった

Q3. この授業の進度は、適切だった

Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった

Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）

Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった

Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった

Q8. この授業は、有意義だった

<学生の受講態度に関する設問>

Q9. この授業にきちんと出席した

Q10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた

Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

Q12. この授業に対する1回あたりの平均勉強時間

(5) 回答方法

5段階評価 5：よくあてはまる

4：ややあてはまる

3：どちらともいえない

2：あまりあてはまらない

1：全くあてはまらない

(Q12. については、5：60分以上、4：60分未満、3：30分未満、

2：15分未満、1：全くしなかった)

(6) その他

科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり。

2. 大学全体の結果

(上段：前期 下段：後期)

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	平均値
Q1-1 シラバスを読んだ	30%	31%	26%	5%	8%	3.71
	38%	30%	22%	5%	5%	3.9
Q1-2 シラバスが役に立った	31%	30%	29%	4%	6%	3.76
	38%	30%	24%	4%	4%	3.94
Q1-3 到達目標を達成した	30%	33%	31%	3%	4%	3.8
	37%	31%	25%	3%	3%	3.96
Q2 到達目標・注意事項の説明	47%	31%	17%	2%	2%	4.21
	51%	30%	15%	2%	1%	4.28
Q3 授業の進度	53%	30%	13%	3%	1%	4.31
	58%	28%	10%	3%	1%	4.4
Q4 教員の話し方	56%	27%	12%	3%	1%	4.32
	60%	26%	10%	3%	1%	4.4
Q5 板書・視聴覚機器	52%	29%	13%	4%	2%	4.27
	57%	28%	11%	3%	1%	4.36
Q6 教員の説明・指導	54%	28%	12%	4%	2%	4.3
	57%	29%	10%	3%	1%	4.38
Q7 教室の環境・設備・機材	55%	28%	13%	3%	1%	4.33
	59%	28%	10%	2%	1%	4.41
Q8 授業は有意義だった	55%	29%	13%	2%	1%	4.34
	60%	28%	10%	2%	1%	4.44
Q9 出席状況	73%	19%	6%	2%	0%	4.63
	71%	21%	6%	2%	0%	4.6
Q10 受講マナー	68%	23%	8%	2%	0%	4.56
	67%	24%	7%	2%	0%	4.55
Q11 授業への取り組み	51%	28%	15%	3%	2%	4.22
	54%	27%	13%	3%	2%	4.29
Q12 平均勉強時間	26%	21%	21%	14%	17%	3.24
	25%	21%	21%	15%	17%	3.22
	60分以上	60分未満	30分未満	15分未満	まったくしなかった	

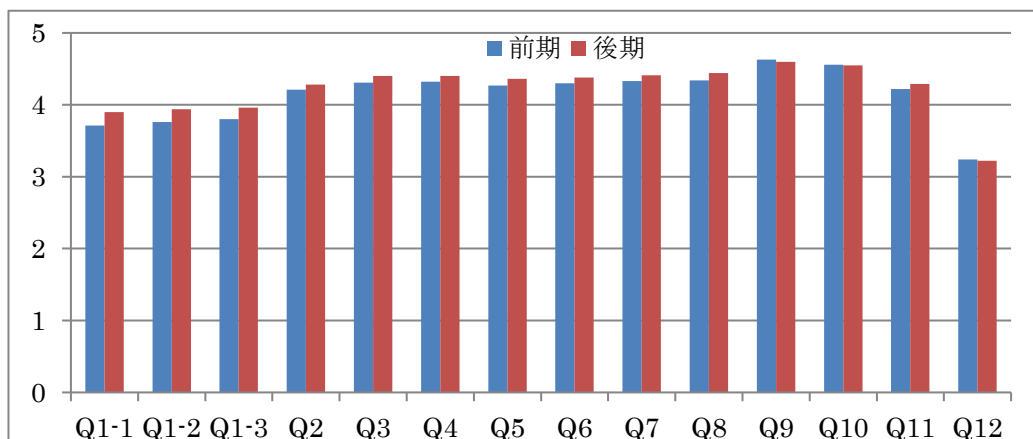


図1 大学全体の結果 (平均値)

3. 学年別の平均値

(上段：前期、下段：後期)

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1-1 シラバスを読んだ	3.58	3.70	3.86	3.67	3.70
	3.89	3.89	3.99	3.84	3.90
Q1-2 シラバスが役に立った	3.65	3.73	3.90	3.70	3.75
	3.94	3.92	4.03	3.76	3.91
Q1-3 到達目標を達成した	3.69	3.76	3.91	3.87	3.81
	3.96	3.93	4.06	3.80	3.94
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.21	4.15	4.22	4.17	4.19
	4.33	4.19	4.38	4.15	4.26
Q3 授業の進度	4.31	4.25	4.32	4.30	4.30
	4.41	4.35	4.50	4.28	4.39
Q4 教員の話し方	4.31	4.27	4.36	4.38	4.33
	4.41	4.36	4.50	4.28	4.39
Q5 板書・視聴覚機器	4.27	4.19	4.33	4.32	4.28
	4.35	4.33	4.43	4.28	4.35
Q6 教員の説明・指導	4.29	4.25	4.34	4.39	4.32
	4.39	4.33	4.47	4.36	4.39
Q7 教室の環境・設備・機材	4.31	4.28	4.38	4.36	4.33
	4.43	4.37	4.49	4.34	4.41
Q8 授業は有意義だった	4.30	4.31	4.39	4.41	4.35
	4.46	4.41	4.47	4.39	4.43
Q9 出席状況	4.68	4.59	4.61	4.16	4.51
	4.66	4.59	4.52	4.18	4.49
Q10 受講マナー	4.56	4.53	4.55	4.31	4.49
	4.61	4.52	4.46	4.30	4.47
Q11 授業への取り組み	4.14	4.22	4.33	4.04	4.18
	4.37	4.21	4.26	4.07	4.23
Q12 平均勉強時間	2.98	3.33	3.48	3.27	3.27
	3.11	3.36	3.17	3.65	3.32

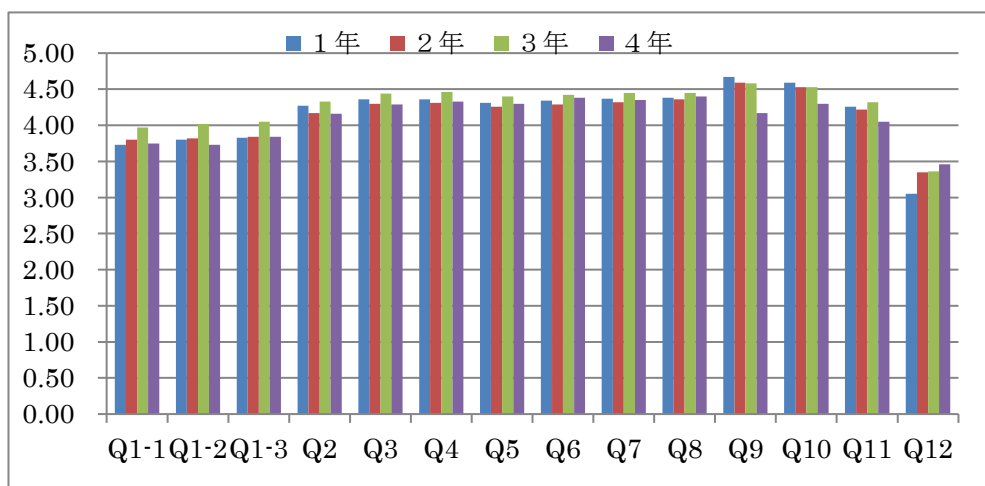


図2 学年別の平均値

4. 学科別の平均値

(上段：前期、下段：後期)

	経営	福祉	こども	健康スポーツ	看護
Q1-1 シラバスを読んだ	3.82	3.84	3.63	3.58	3.78
	4.03	3.88	3.82	3.75	4.05
Q1-2 シラバスが役に立った	3.89	3.85	3.70	3.63	3.82
	4.03	3.86	3.88	3.78	4.12
Q1-3 到達目標を達成した	3.92	3.81	3.73	3.69	3.88
	4.05	3.83	3.95	3.83	4.10
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.30	4.21	4.22	4.09	4.27
	4.37	4.22	4.32	4.16	4.37
Q3 授業の進度	4.31	4.31	4.39	4.23	4.35
	4.46	4.38	4.50	4.32	4.40
Q4 教員の話し方	4.35	4.32	4.37	4.27	4.35
	4.47	4.38	4.50	4.35	4.40
Q5 板書・視聴覚機器	4.29	4.22	4.33	4.20	4.31
	4.45	4.29	4.45	4.28	4.38
Q6 教員の説明・指導	4.34	4.26	4.31	4.25	4.33
	4.43	4.33	4.47	4.32	4.38
Q7 教室の環境・設備・機材	4.36	4.29	4.39	4.26	4.37
	4.47	4.31	4.52	4.33	4.46
Q8 授業は有意義だった	4.34	4.32	4.36	4.26	4.40
	4.45	4.36	4.51	4.39	4.48
Q9 出席状況	4.38	4.54	4.73	4.48	4.83
	4.37	4.54	4.69	4.51	4.76
Q10 受講マナー	4.37	4.41	4.49	4.44	4.76
	4.42	4.40	4.56	4.47	4.72
Q11 授業への取り組み	4.05	4.02	4.18	4.09	4.45
	4.24	4.03	4.36	4.18	4.48
Q12 平均勉強時間	2.90	3.17	3.02	2.79	3.73
	3.05	3.09	3.15	2.93	3.64

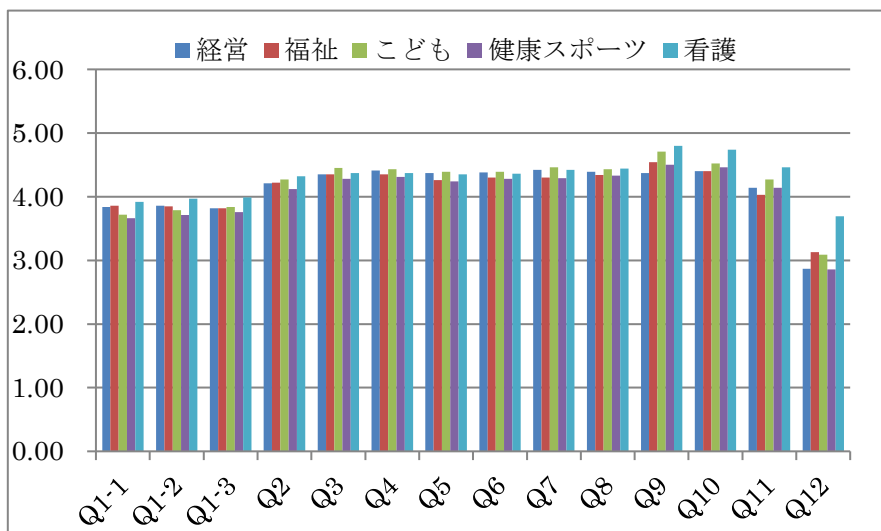


図3 学科別平均値

5. 最近3年間の平均値の推移

	29年度		30年度		R元年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1-1 シラバスを読んだ	3.66	3.73	3.69	3.80	3.71	3.90
Q1-2 シラバスが役に立った	3.70	3.80	3.74	3.84	3.76	3.94
Q1-3 到達目標を達成した	3.75	3.85	3.78	3.88	3.80	3.96
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.12	4.17	4.17	4.19	4.21	4.28
Q3 授業の進度	4.24	4.28	4.28	4.30	4.31	4.40
Q4 教員の話し方	4.22	4.27	4.29	4.30	4.32	4.40
Q5 板書・視聴覚機器	4.18	4.22	4.24	4.26	4.27	4.36
Q6 教員の説明・指導	4.19	4.23	4.26	4.27	4.30	4.38
Q7 教室の環境・設備・機材	4.24	4.29	4.32	4.30	4.33	4.41
Q8 授業は有意義だった	4.24	4.29	4.30	4.32	4.34	4.44
Q9 出席状況	4.58	4.53	4.63	4.57	4.63	4.60
Q10 受講マナー	4.50	4.50	4.57	4.50	4.56	4.55
Q11 授業への取り組み	4.14	4.18	4.23	4.19	4.22	4.29
Q12 平均勉強時間	3.17	3.18	3.21	3.16	3.24	3.22

6. 一般、専門、教職科目別の平均値（前後期平均）

	一般科目	専門科目	教職科目
Q1-1 シラバスを読んだ	3.66	3.87	3.76
Q1-2 シラバスが役に立った	3.62	3.86	3.76
Q1-3 到達目標を達成した	3.66	3.89	3.87
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.06	4.23	4.12
Q3 授業の進度	4.22	4.34	4.14
Q4 教員の話し方	4.20	4.34	4.13
Q5 板書・視聴覚機器	4.18	4.29	4.06
Q6 教員の説明・指導	4.18	4.31	4.09
Q7 教室の環境・設備・機材	4.22	4.36	4.22
Q8 授業は有意義だった	4.17	4.37	4.17
Q9 出席状況	4.55	4.61	4.64
Q11 授業への取り組み	4.04	4.24	4.28
Q12 平均勉強時間	2.69	3.35	3.38

FD関連図書コーナー新着案内

本学図書館1階の参考図書架に設置されている「FD関連図書コーナー」では、毎年多数発刊される国内のFD関連図書の中から、特に有用なものを選定・購入し、蔵書を充実させています。

新たに購入した図書の主なものは、次の通りです。自由に閲覧、貸し出しができますので、多数の方のご利用をお待ちしております。

書名	著者名	出版社
評価が変わる、授業を変える：資質、能力を育てる カリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価	二木 展郎	三省堂
改訂 プロジェクト学習で始めるアクティブラーニング入門 ・テーマ決定からプレゼンテーションまで	稲葉 竹俊、鈴木 真希枝、 その他	コロナ社
アクティブラーニング入門3 ～現状を変える「振り返り会」で授業改善を進める	小林 昭文	産業能率 大学出版部
シラバス論：大学の時代と時間、あるいは〈知識〉の死と再生について	芦田 宏直	晶文社
危機に立つ東大（ちくま新書）	石井 洋二郎	筑摩書房
これからの大学	松村 圭一郎	春秋社
大学教職員のための大学組織論入門	中島 英博	ナカニシヤ 出版
大学1年生からのプロジェクト学習の始めかた	常盤 拓司、西山 敏樹	慶応義塾大学 出版会
大学 心得帖	鈴木 武夫	ビジネス社
新たなる大学像を求めて： 共愛学園前橋国際大学はなぜ注目されるのか	鶴蒔 靖夫	IN 通信社
大学生のためのクリティカルシンキング：学びの基礎から教える実践へ	レスリー・ジェーン、 イールズ・レイノルズ、他	北大路書房
大学論を組み替える—新たな議論のために—	広田 照幸	名古屋大学 出版会
大学での学びをアクティブにする アカデミック・スキル入門	伊藤 奈賀子、中島 祥子	有斐閣
ICT活用で学ぶ アカデミック・スキル（大学生に求められる論理力）	富山大学情報処理部会	梧桐書院
教育激変-2020年、大学入試と学習指導要領大改革のゆくえ	池上 彰、佐藤 優	中央公論新社
大学教育における高次の統合的な能力の評価	斎藤 有吾	東信堂
大学評価学会年報第15号『現代社会と大学評価』 教育と研究の現場から考える大学のグランドデザイン	大学評価学会年報 編集委員会	晃洋書房
スタディサプリ 大学の約束 2019-2020（リクルートムック）		リクルート
大学総合研究センターの今：教育改革に挑む早稲田	姉川 恭子、石井雄隆、 山田晃久 他	早稲田大学 出版部
グローバル化時代の教育改革：教育の質保証とガバナンス	東京大学教育学部教育 ガバナンス研究会	東京大学 出版会
知へのステップ 第5版 —大学生からのスタディ・スキルズ	学習技術研究会	くろしお出版

令和元年度 FD 推進委員会 活動記録

令和元年	5月10日	令和元年度 第1回委員会 議題 1) 平成29年度活動予定 2) その他
	6月20日	令和元年度 FD研修会 「ストップ・キャンパス・ハラスメント! ~誰でも加害者・被害者に~」 講師: 福山大学人間文化学部心理学科 日下部 典子 教授
	6月21日	令和元年度授業公開 アクティブラーニング実地見学会 福祉学科「ボランティア活動論」 杉本浩章 准教授・崔銀珠 講師
	7月16日~8月9日	学生による授業アンケート調査(前期)
	9月24日	第2回委員会 議題 1) 前期授業アンケートの結果について 2) FD講習会開催について 等
	9月3日~9月6日	FD講習会「実用統計講座」I 講師 経営学科 福井 正康 教授
	12月23日~12月25日	FD講習会「実用統計講座」II 講師: 経営学科 福井 正康 教授
令和2年	1月20日~2月14日	学生による授業アンケート調査(後期)
	3月11日	第3回委員会 議題 1) 後期授業アンケートの結果について 2) その他
	3月	FD関連図書コーナー(図書館)蔵書追加
	3月31日	FDニュースレター第16号発行

編集後記 FDニュースレター第16号をお届けいたします。平成31年度として始まった本年度ですが、5月に元号が令和に変わり、年度末には新型コロナウイルスの世界的蔓延で本学も卒業式が中止になるなど、歴史的な出来事が駆け抜けた年度になりました。また、来年度から始まる予定の新入試制度に関しても、英語の受験方式が変更になるなど、大学教育の将来も不安定な要素がつきまとっているようです。FD推進委員会としては変動する大学教育の新たな流れについての情報を幅広く収集しながら、先生方のご参考になるような活動をしていければと考えております。今後ともよろしく願いいたします。最後になりましたが、皆様の本年度のご協力を心から感謝申し上げます。(KW)